
恋姫†無双オンライン

山本君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋姫十無双オンライン

【Nコード】

N9996Y

【作者名】

山本君

【あらすじ】

恋姫無双……前世紀において、歴史美少女物というジャンルにあつて、一時代を築いた作品とされているゲームタイトル。

そして、今世紀初頭に開発された、仮想現実に入る為のシステムが民間で実用化されて以来、幾度かリメイクされている為、その知名度・人気は高い。

しかし、主人公「ホンゴウ・カズト」その人に配置されての追体験に主眼を置かれていた、今までのそれらは、残念ながら佳作の内に終わる事が多かった。

そんな中、「真・恋姫無双」を多人数参加型のフルダイブ型ロールプレイ、しかもギリギリまで制限を外し、「戦争も恋もギリギリ」を謳い文句にした、ビッグタイトルが急浮上した。

開発から発表までの紆余曲折、新技術の導入やブレイクスルー、既存の規制からの脱却……。

それこそ「某プロジェクトなんか」じみた話もあったが、今回の話には関係ない。

この話は唐突な泡銭を抱え、現実に辟易した主人公が、他人に渡す位ならとゲームに金を注ぎ込み、のめり込んでいく。

そんな話です。

バイト先の先輩に、人数合わせで連れてかれたカラオケの後、ラーメン屋に行く途中で何気なく皆で買ったロトくじ。

丁度キャリアオーバーで二十億チヨイの週に八人当選、そのうち三口買った俺に八億程転がり込む事に。

まるでどこかのラノベ染みた出来事に、何かしらの出会いや出来事が始まるのかと、期待半分のおっかなびつくりで数日過ごしてみたものの、まったくと言って良い程に何時もの生活が続いている。

いや、悪い意味での変化は有ったか。

何処から漏れたのか、通ってる大学の中に当選者が居るらしいとかな噂が流れたし、何故か苦学生アピールする連中が増えた。

奇特な奴が金でも回してくれると考えているのやら……元から貧乏でバイト三昧の苦学生やってる俺までが、同じような括りで眺められるのは中々に業腹なので辞めていただきたいものだ。

さて、八億の使い道だが一括で貰うと目減りする為、半金の四億貰って後の半金は十年分割というプランに。

この先の十年間は、月あたり三百万オーバーの入金がある事になる……なんか、こういう事になると、人生が十年以内に終わったらどうしようとかいう、馬鹿な事を考えてしまうな。

とりあえずの四億の内、苦労掛けている両親に一億程送っておい

た。少なくとも、これで家のローンだとか修繕費だとか差っぴいても俺が働きたすのも併せて、年金貰う辺まで安泰だろう……無茶な使い方する程に多趣味でもないし。

それから、年金やらの先払い出来る奴は突っ込んでおく。

国民年金は一年払いしか出来ないのはどうかと思うが……個人年

金等では、入院保障のある終身の奴を三社程に撒いて全払いしておいた。

そんなこんなで将来の安心を、気持ちだけでも準備できたので、目先の欲に走ろうと思う。

人によれば、車買ったり贅沢したりって方に走るかもしれないが、俺としては、今の生活を大きく変えるのも面倒くさいので、興味の有ったダイブ系のゲームに走ろうと思う。

今まで、バイト先の慰安旅行とかの際、アミューズメントセンターで体験した事はあるが、中々刺激的な代物だった。

ただ残念な事に、今のアパートには、ダイブに必要な機器を置くのが困難という事で、別途にマンションを購入する羽目になってしまった。

賃貸でも良かったのだが、割と近くにダイブのシステム込みで千五百万位の物件（新築以来入居なし三年落ち）があり、北の端部屋で微妙に狭かったりするのだが、どうせダイブする時に使う位で週末しか来ないような所だしと、即金で購入。

今になって思うと、湿気とかどうなんだろうと若干不安である。

色々面倒くさかったのと、気が大きくなってたんだろう。

ともかくそんな感じで今の生活のうち、週末のバイトを削り、空いた時間でダイブ三昧の準備は出来たのだった。

新しい生活の初めての週末。

この日までに、色々とネットで情報収集を始め、何が良さそうかと調べた結果、戦闘メインのファンタジーやFPSはチーム的な事が基本で、一見には厳しい物が有るようだし、ロボットや戦闘機に乗ってのアクションシューティングも、あまりやり込む性質でもないのでパス。

となると、R18枠のアドルトかなーと色々探っていると、戦闘もあり恋愛もあり、立ち位置によって、役人では内政物、商人になれば成り上がり、将軍や武将になっての采配や一騎打ち、一兵士での殴り合い、野盗や荒くれ者でヒヤッハも可能というタイトルを発見した。

タイトル名『真・恋姫無双真Empires立志伝 parallel dive』一見、某歴史メーカーのタイトルかと思う代物だが、れっきとしたアドルト枠だ。

ぱつとみて、一体、何をすれば良いのかと悩む所だが、簡単に言うところ「外史という三国志世界のパラレルワールドで好き勝手しろ（意識）」とパッケージのクイックスタートに書いてあった。

基本的には、同名コンシューマーのタイトルと同じような流れの歴史の中で（若干の設定のブレは意図的に入れてあるそうだが）一兵士だとか役人だとかになって過ごす事になる。

その中で、恋姫武将と色々……な訳だが、パラレルダイブ（複数人同時没入）というジャンル上、他のプレイヤーの影響も出てくる為、攻略対象が被ると残念な事になったりもする。

更には「ホンゴウ・カズト」という、本来の主人公まで居る訳で、中々にオリジナルのメンバーは難易度が高いようだ。

まあ、一般モブ・ネームドモブ・ユニークモブ等も用意されている為、キャラクターに拘りなく、単に色々するだけなら、それ程の

難易度はないらしいのが救いか。

また、外史一周の時間は感覚が圧縮されている為に約一時間とお手軽。

セーブなどは無く、一発勝負で、死んだら途中退場。

まあ、自分でリタイヤした以外では、一分以内に次の外史が始まるので、其れにJOINすれば良い。

自分でリタイヤした場合は、抜けた外史が終わるまで再スタート出来ない。

等というチュートリアルを流しつつ、基本のパッケージ分のインストールが終了した後、更新分のダウンロードとインストールが進んでいく。

さて、しばらくして、コンソールに作業終了の表示が出て機体が再起動。

ショートカットからタイトルを起動、初期設定のキャッシュカードの登録やポイント購入の自動追加払い込み方法等等々が済み、タイトル開始メニューが表示されると、自動でキャラクターの新規作成が始まった。

キャラクター自体は幾つか登録できる物を、繰り返す外史の中で使いまわす事になる。

各キャラクター毎に成長要素もあり、レベルが上がれば、其れなりに攻略等で有利になるとか。

パラ的には大雑把に統率・武力・知力・政治力・魅力・運といった、ありがちな代物だが、他にもスキルだの特性だの隠しパラだのが存在するようだ。

まあ、最初に決められるのは初めに挙げた6つの能力値だけらしいので、余り気にする部分はないみたいだが。

「ふむ、名前はどうするか」

基本的に、主人公である「北郷一刀」を見るように、まんまの名前でも構わないようだ(アイテムで、一周だけ名前を変更する代物もあるそうだし)ここは、それっぽい名前にしておこう。

三国志で金持ちといえば……袁家だったり、金使いでは演技の魯肅が色々と逸話があるそうだけでも、此処は水滸伝から盧俊義とか……無いわな。

趙員外……誰も判らんな。

やめた、姓は金、名は千、字は満腹にしよう。

『金満腹』、ラーメン屋の親父か……斬新すぎる。

アヴァターも、自分取り込みとかやってられないので、ランダムでモブっぽい奴を……おお、ちよい背が低い小太りの中年オヤジ、小金を持ってそうだけど、そこはかとなく女運とか無さそうな酒屋のオッサンみたいなのが出来たな(でもハゲじゃないのは拘りだ)そんな感じで、サクツと名前を入力してやると、パラメーターが表示された。

統率 18・武力 13・知力 18・政治 21・魅力 20・運 19

ポーンナス：42

大凡、13から21迄に収まっているが、プレイヤーのベース能力値はマックス40(運除く)までらしいので、特に振り直しはせずにポーンナスポイントを振る事にする。

ポーンナスポイントは42ポイント……能力値の低い物を一つ40にしてしまおうか、高い物を二つ40に上げるか、制限のない運に突っ込むか、はたまた万遍なく上げるか……WIKIを見ると、できれば二つは40しておくのが良いとされていた。

そうして、複数キャラを作って、方向性を変えて登録するのが基本のようだ……。

T i p s .

Q・お勧めの初期キャラ、パラ振りは？

A・出来れば、統率・武力マックスの余りを知力振りか、政治・知力マックスの、余りを統率振り。

軍閥トッププレイの魅力・運振りは素人にはお勧めできない。

A・初期に、一番高いポイントの能力値には、隠しパラ乗るので、マックス振りのポイントが二つよりは39・40にするのがお勧め
(未確認)

A・マイ外史の事とか考えたら、運に一点振りで、作成後にパラUP突っ込んで、オール40スタートの1キャラプレイが最強じゃねえ？

A・運以外40にするのに、平均20突っ込んで計100ポイントUPで十萬か、今まで突っ込んだ課金アイテム考えたら高いのか安いのか……なんにしろ、懐が寒くなるな。

という書き込みがあったので、やってみる事にする。

運に全振りで61まで上げて、キャラクター作成。

その後、パラUPアイテムを、110個購入……十一万円なり。

さあ、キャラクターが作成完了。

課金アイテム突っ込んで、初期とは思えないパラメーターだが、レベルが低いので色々足りない部分は有るだろうから（熟練度っぽい物が有るようだ）この先の成長に期待だ。

で、ここまでは、ダイブシステム付属のコンソールから作業していたのだが、この先は作品にダイブしての行動になる。

今までも何回かは体験している物の、自分専用の機械からのダイブというのは、中々に感じが違うものだと思う。

強いて言うなれば、平日の夜と連休前の金曜の夜の違いとか？

基本的な際限なく、自分でやめたいと思う迄続けられるとか、半端じゃなくテンションが上がる。

よし、始めよう。

ダイブといっても、液体の入ったポッドみたいな大がかりな代物は必要ない。

サブコンソール用のHUDグラス（こめかみにサブの受信機）と、首の後ろにセットする送受信機兼ミキサのヘッドセットに、右手か左手の筋電位マウスグローブ付けて完了。

後は楽な姿勢で横になればOK。

そのうちに半覚醒状態に移行し、安定すればタイトルがスタートする。

感覚的には、一瞬、気が遠くなっていたかと感じた次の瞬間には、ダイブ状態に移行しているといった感じだ。

今回も、何かに気を取られていたような状態から、ハツとした時には、自分が水中に居るような浮遊状態になっていた。

目の前には、メニューを模した球体が浮かんでいる。

それらに触れながら、「キャラクター選択」、「新たな外史へ」と進む。

「いらっしゃーああい　お・は・つ　のお客様ねえん」

いきなり、何か唸るような音が、世界を震わせた。

「あーら、驚かせちゃったかしらあん。

わ・た・し、当ダイブタイトルのチュートリアルを担当するパーソナルの貂蝉よおん」

ぐはあ、無言で、右手のイメージを操作。

オプションを開いて、設定を変更しようとして……。

「ごらあ、誰が超リアルホラーのボスも慄く、発禁グロだとお！！」

誰もそんな事は言っていない。

「と・に・か・くう、チュートリアルが終わるまでは、設定変更不可よおん」

これはキツイ。

見てもないのに、筋肉マッチョがくねくねしているイメージが伝わって来る。

なんで、こんな所に力入ってるんだ。

「まずは、スタート位置の設定ねん。

本当はランダム設定か、マップ表示の中から選択してもらおうんだけど、

今回はチュートリアルだから、此方で指定させて貰うわよん」

メニューが開き、位置指定設定へ進み、マップ上の光点がマップ上部へ移動していく。

光点が止まり、意思確認がYで進む。

幽州か……確か、地味の人のお膝元か。

「じゃあ、開始するわねん」

言葉が終わるか終わらないかの瞬間、風景が切り替わり、自分の姿が登録してあったアヴァターに置き替わる。

体に重力を感じ、肌風に風を判じる感覚が、意識を鮮明にさせる。

でも、半分寝てるんだよなあと、変な感心をしてしまう。

腹を触ると太鼓腹の感触。

そのくせ、能力値のせいかな身は軽い。

そんな違和感を楽しんでいると、声が降ってくる。

「時間はスタート時点から少し進めてあるわ。

星ちゃんが客将になっていて、貴方は白蓮ちゃんに以前から仕えてるってところかしらん」

なるほど、やはり普通の人に仕えているのか。

自分の風体を見ると、御用聞きの商人だか下っ端役人だかの、どちらでもいけそうな感じだが、どの程度の位置に居るんだろうか。

「うーむ」

「金千どの？」

腕を組んで首を傾げていると、不思議そうな声で、脇から声を掛けられた。

今まで、マツチヨの声に慣らされていたせいか、リアルで鈴の鳴るようなという喩えを頭に浮かべた事になった。
って、感心している場合じゃないな。

「おっと、これは失礼」

振り向くと、何という……艶やかな。

ぶっちゃけデザインは中国舐めてんのかって風に、あり得ないのだが、胸元足元の挑発度合いに全てを持っていかれて納得させられてしまう。

健康的な色気というには透き通るように白い肌が艶かしく、仄かに朱に染まっているのは調練でも行っていたのであるうか。
思わずガン見してしまいそうになるが。

「駄目よん、乙女の柔肌ガン見しちゃ。

紳士たるもの、焦っちゃ駄・目。

でも、そのパトス、ああん、あつついわああん」

絶対に、お前にゃ注がねえよ！！

うげえ……思わず変な想像になりかけて意識が飛びそうになったわ。

「これはこれは、趙雲殿。いつも変わらずに、美しい」

「いやいや金千どの。そのように真っ直ぐ褒められると、参りましたな」

意識がそれた後、勝手にキャラが応対している。

「今みたいに、プレイヤーとキャラクターの同調が離れると、体感時間が加速されて、キャラクターは自律して動き出すの。」

キャラクターは特に対象や行動を指定していないなら、基本的に無難な行動をするから、よっぽど微妙な情勢でもなければ変な事にはならないわ、安心してねん」

気がつくくと、趙雲の姿はなく、いつの間にか部屋で竹巻もって書き物をしていた。

この辺も自律して勝手に進んでいるらしいが。

「あ、そうそう。自律している時の行動の達成度は能力値基準になるのだけど、意識して行動することで、効果を上げる事ができるわ。

簡単に言うと、運のパラメーターを消費して、不足分の能力値のかさ上げだったり、成果の達成度を上昇させたりできるのよん。

運のパラメーターは暫くすれば、上限までゆっくり回復するから、旨く使ってねん」

それからも、兵の訓練だの政務の進め方だの、基本的な行為判定なんかを、割とちゃんと解説してくれるマツチヨに感謝しつつ、チュートリアルを進めていく。

基本的に能力値が足りている為か、特に失敗もない。

「あらん、能力の及ばない行為判定について、運のパラメーターを使ったカバーリングのチュートリアルが出来なかったわねん。

あなたってば凄いのねえ」

言外にどんな意味が含まれているのか気になったが、褒め言葉と違ってスル しておいた。

「それじゃあ、最後にイベントの処理を行うわよん」

「イベント？」

「今まではあくまでも日常の行為ねん。

基本的に外史の流れには影響の出ない、競う相手もない己の評価を積み上げたり経験を積むような事柄だったのね。

今から始まるイベントは、対プレイヤーだったり、外史の基本線にズレを起こすような戦争だったり結果の変更だったりするのよん

」

地味な人にそんなイベントってあったんだっけか？

どうやら普通の人は、イベントに巻き込まれる側だったらしい。城下に『劉』旗を挙げた団体さんがやってきて、騒ぎになっているそうなの。

どうやら、自分のキャラクター、内政やってる下っ端の役人じゃなく、それなり以上の決定権握らされてる上に、趙雲さんに公孫贄さまの下の次の次の次くらいの隊長職までやっているそうなの。

「ただ一人が居らんのだ。」

王門、関靖、嚴綱、単経、田楷、田豫あたりは居るっぽいけど、モブなのか名前だけで登場しないし。

「仕方ないので、警備の兵を引き連れて、城下に押し出ると。」

「金千どの」

趙雲さんが、騒ぎを聞きつけて、やってきてしまった。

「どう考えても蜀への移籍フラグだな。」

確かにコンシューマーのタイトルでも、蜀ルートでこんなイベントがあった。

北郷さんの仕込みで、劉備さんが普通の人がたかると行くような話だったか。

主人公視点だと、なんかうまくやった感じだったが、こっちは側に居て、こうこられると迷惑すぎる話だな。

「つか、主人公登場なのか!？」

「うわ、チュートリアルのは最後は負けイベントかよ!!」

「そこは、あなたの腕次第ねん」

「どう考えても無理臭い所へ、マッチョの声に促され進むことに。」

城下に出ると、野次馬と不安におののく民の声、迷惑すぎる相手は、なんか旗と武将だけは立派で、後ろに並ぶというかついて回ってる連中は貧相なことこの上ない。

どう見ても盗賊団です、ありがとうございました。

「とにかく、やるべきは劉備と普通の人の面会阻止。できればこのままお帰り頂くってところか」

と思ってる脇で。

「ほほう、なかなか」とか、趙雲さんが、なんか良く判らん部分で、ファーストインプレッションを受けたようです。

先を思いやられながらも、とにかく仕事をするしかない。

「その連中待て！！ 城下を騒がせるとは何事か！！」

さっさと出て行かねば、「我らは劉備玄德、天の御遣い率いる義勇軍である！！」おっふ「

「ほほう、あれが噂の……」

…… 趙雲さんよ、完全に見物モードか。

関羽さんも話を聞けよなあ。

「劉備様のご学友、公孫伯珪殿に目通り願いたい！！」

見た目、そんなに大柄でも無い美人さんなのになあ。

やたら声がかいし、馬乗ってるから見下ろされて、凄い勢いで威圧されるし。

どうみても、俺の事は木端役人というか、モブ扱いですね、兵士Aとかか。

黄巾の色違い使いまわし辺りに見えてるのか。
いや、こつち見てないか。

なんとなく、趙雲さんの方を気にしてるのか。
おかげで、近くで見上げると、えらいミニで馬乗ってるから……
白いのがチラチラしてるんですが。

じゃなくて。

「確かに、劉備どのの名は聞いた事がありますな。

天の御遣いという者の噂も聞いた事が有りますが……」

「それでは、」

「それと面会は別の話ですな。

義勇軍と申されましたが……どうみても、この街で見覚えのある、
あぶれ者を集めただけにしか見えませんぞ。

大体において、給金を提示しての募兵に応じなかったこの連中が、
いきなり志に目覚めてなんぞ……。

ちゃんちゃら可笑しいわ!!

きさまら、本気で義勇軍だというなら、今から賊の討伐に行つて
貰おうか!!

そこで死んだら、実家に見舞金の一つでも包んでやるつさ!!」

俺の一喝に、蜘蛛の子を散らすよう、ばらけて逃げ去る、あぶれ
者連中。

「で、面会でしたか……」

「は、は」

なんか、乾いた笑いで固まってる、劉備さん御一行。

「策を用いて取り入ろうとされるなど、ご友人といえど許される事

ではありませんな。

申し訳ありませんが、お引き取りを」

ちと怖いが、一步踏み出して、城門を指差す。

「ふむふむ、これは金千どのが一本上手でしたなあ」

こいつ、メンマをツマミに酒呑んでやがる。

「ですが、そう堅い事を言わずに、取り次いでやってもよいのではないですか？」

「ほんとか!!」

「趙雲どの!？」

ぐああ、後ろから撃たれたああ。

主人公さんが、凄い勢いで食いついて来てるし。

「ご学友を追い返したとなれば、伯珪どのも残念がるのではありませんかな？」

「其れは御尤もですが、どう見ても己の基盤の無さを棚上げして此方に頼る気の者を。」

しかも平身低頭して乞うならば、いざ知らず。

策を弄してなし崩しに、人の良さに付けこもう等と、徳ある者の行いとは思えぬ所業。

そんな者を、勝手・狭量と言われようと、取り次ぐ訳にはいきませんな!!」

これでどうだ!!

「あーら、お見事ねん。」

プレイヤーの行動は、そのルールプレイでも能力値の優劣以外の部分で作用するの。

今のは相手の裏技めいた行いを、物の道理を押しした正攻法で押し返したから、結構きいてるわよお」

マツチヨの解説はいったい。

「貴様、桃香さまを愚弄するか!!!」「お姉ちゃんをいじめるなのだ!!!」

「お願いします、白蓮ちゃんに会わせて下さい!!!」「騙そうとしたのは俺のせいなんだ、だから頼む、桃香を会わせてやってくれな
いか!!!」

力づくの詰め寄り、そして劉備さんから凄まじい、お願いパワーが!?

何というフェイス・フラッシュ。

これが、漢王朝皇族の力かあ!!!

因みに主人公さんからは、女性限定なのか、特に何も感じなかったが。

じゃなくて、抵抗しないと、なし崩しにズルズル行ってしまいそう
うだ。

「なら、ここで、運を使つてのリカバリーねん」

運の61ポイント全てを、魅力の40にのせて、抵抗!!!

流されそうだった場の勢いが、此方に戻つて来た。

恐らくは、序盤で未だ覚醒前の劉備さんだったおかげで、抵抗が
出来たんだろう。

この勢いなら言える。

「だが断る！！」

そこからは、一瞬の内に全てが起こった。

断られて、へちやんと腰を落とす劉備さん。

失意に固まる主人公。

激昂・マジ切れして、得物を振り上げる関羽・張飛の二人。

流星に、割って入ろうとする趙雲さん。

目の前であー、ヤバイなーと思いつつ、動けない俺。

ゆっくり動く中で、趙雲さんの槍が、おチビさんの蛇矛を反らし、火花が散る。

其れを見て、関羽さんは一瞬、我に返ったか刃が鈍り、なんとかたたっ切られずに済みそうに思えた所で、眼の端に普通の人が見えてくるのが見え。

このままだと、なんか結局はシナリオ通りになってしまいそうで、妙にムカついたので。

止まりかけた刃に向かって、一步踏み込んでみた。

5 (前書き)

12/7ポイント間違い修正

バツサリ・ズバア

なんか、そんなギャグっぽい擬音が書き文字にされそうな呆気無さで、肩口から胸元に浅く傷が走った。

一瞬、何も感じなくて、おや？　と思った途端、傷に沿って熱の線が走った。

アツイ・イタイ・アツイ・イタイ、実際は随分と減衰している筈なんだろうけど、上手い事死ねなくて、気絶もしない程度のダメージが、俺の神経を思いつきり痛めつけてくれる。

こりゃ確かに、成人枠だわ。

どれくらいの時間が続いているのか判らないが、周囲の動きが微かに見える。

普通の人が何か叫んで、趙雲さんはびっくりした顔で、此方を見ていた。

俺と視線が遭ったので、空元気押しでニヤリとしてみると、何が受けたのか、堪え切れないように、大笑いをかましていた。

其処ら辺を見た後は、何も覚えていない。

次に見た景色は、相変わらず、外史世界の中だった。

どうやら、ゲームオーバーにはならなかった模様。

自室の寝台から体を起こすと、何故か趙雲さんが傍らに居て、一人酒盛りをしていた。

相変わらず、ツマミはメンマか。

体には、違和感というか、鈍い圧迫感を感じる。

傷の分の行動ペナルティのようなものだろう。

継続的に痛みを押し付けられる仕様じゃなくて良かった。

さて、あれからどうなった？

ステータスというか、情報画面を見ると、あれから丸二日経っているらしい。

物問いたげな顔をしていたのか、趙雲さんが「無茶をしますなあ」と、ひとしきり笑ってから、あれからの事を教えてくれた。

結果から言うと、俺の企んだ通り、流石に配下たたっ切られては、普通の人も劉備さんを友人扱いは出来なかったらしい。

幾らか餞別を渡して、放り出す予定らしいが、今は謹慎させているそうだ。

「それで、趙雲さんは？」

何をしてらっしゃるのです？ と問いかけようとした所で。

「どうか、星と呼んで頂きたい」

「おや、どういふ風の吹きまわしで？」

真名は未だ、誰にも預けていなかったようですが。

「いや、色々と感じ入る所がありましたな。

我ながら、随分と金千どのを見くびっておったなと。

己の増長、見る目の無さなど、色々と思い知らされ、目から鱗でしたぞ」

「ほほう」

「例えばですな、あの全てを惹きつけずにはいられない、あの劉備どのの媚を吹き払う気迫」

「ほう……」

「天の御遣いの名に怖じず、策を弄した非を断じる信念」

「ほう……」

「最後に英雄豪傑たる、関雲長に笑って斬られにいく胆力。
この趙子竜、引けを取るつもりはありませぬが、あの真似はでき
ませんぞ」

「は、はははは、は」

もう二度とやんねえよ！！

ばったりと寝台へ倒れ込んだ。

「あらん、随分と流れが変わっちゃったわねえ。

予定だと白蓮ちゃんと真名交換するスケジュールだったんだけど」

あ、マツチヨの声か。

そうだったのね、普通の人。

チュートリアルに使われるんだ……普通の人。

「ここで、最後のチュートリアルよ。

アイテムボックスを見て頂戴」

ん、なんか指輪が点滅しとる。

「それは、外史に入る際に支給される、契約指輪（支給品）よ。

新しい外史に入る度に一つ支給されるから、どんどん使っちゃっ
てねん。

あ、一つ以上は支給されないし、外史を出る際には消えちゃうか
ら、注意よん。

まあ、ポイントで追加購入できるものはスタックして、保存もで
きるから、よかったら使ってみてねん。

で、ここでは、その指輪の使い方をお教えちゃうわよお。

おおよそ、真名を預けて貰えるっていうのは、一つの目安なのね。

ある程度の信頼や愛情・興味でもいいかしらん。

それを対象が貴方に向けているってことなの。

その時に、貴方がその契約指輪を相手に渡して、受け取って貰えたのなら。

それは、その相手を貴方のM y外史に連れて行けるってことなのよん

でも注意してねん、M y外史に連れて行けるキャラクターは、一回の外史では重複できないの。

ここでは星ちゃんを貴方が連れて行くことになる、他のプレイヤーは星ちゃんに手が出せないのね。 無論、桃香ちゃんだったり、愛紗ちゃんだったりなら問題ないわ……でも、その場合はご主人様がお邪魔伽羅してるから大変なんだけど（ボソ）

それから、指輪の機能なんだけど、M y外史へのマーカー以外に他のプレイヤーやご主人様からの干渉を100ポイント分吸収してくれるのよん。

他にも貴方が星ちゃんに失望されたりする分も吸収してくれるから、指輪をつけている間は愛情だったり忠誠度だったりは下がらないのだけど、100ポイント超えちゃうと指輪壊れちゃうのよね。

だから、そうなったら新しい指輪を渡さないとM y外史には連れて行けないから注意してねん。

あと、条件としては外史終了や自分でのリタイヤだと問題はないけれど、プレイヤー死亡でのゲームオーバーだとキャンセルされちゃうから、こちらにも注意よん。

それ目的のPK行為も有効だから、あまり欲張らないでリタイヤするのも大事ねん

それじゃ、チュートリアルは終わりよん。 シューねえん」

なるほど。

指輪ねえ、ポイントで購入できるって言うって、どれくらいなんだ？

ああ、外史内で稼いだ給金みたいなポイントでも購入できるのか。

1000ポイントね、安くはないけど買えなくはない……って、上位版もあるのか。

5000ポイントで200負荷吸収、10000ポイントで300負荷吸収……ポイント換算がリアル10000円で100000ポイントだから、200版は500円、300で10000円かよ。

なんとという、課金げー。

まあ、通常の支給品と同じのは1000円で事だから、一応はそこまで外道でもないのか？

って、なんかキャンペーンのポップアップが……なんか、知っている名前の宝飾品ブランドが。

何々？ 期間限定コラボ企画、ブティック・ミクニの契約指輪をリアルで買おう？

ダイブタイトルの中の指輪を、リアルで同じデザインで作ったのか……気軽にプレゼントできないんじゃないかなあ。

まじで、普通にデザインはいいけど18万か。

それが今だと15万で、更に購入アイテムの新規追加コードつきね。

買う奴いんのかよ！！

ポチっとな。

6 (前書き)

1 2 / 7 誤字修正

品物は、当日発送いたしますというメッセージが帰ってきた。

キーコードは、発送番号だの何だのと一緒に、確認メールで送られてきたので、コピペ入力。

「ポイントショップに新しいアイテムが追加されました」旨のメッセージに、確認しようとショップのウィンドウを開く。

NEWと新規追加のマークを探すと、50000ポイント・吸収
負荷上限なし・常時忠誠度上昇（微）という品が……リアルで5000円か。

たけえ、普通にアクセサリ買えちまう。

でも値段分の効果はあるんだろうな、これを見たら買わずにはいられないだろうってくらいの。

まさに悪魔のシステムだな。

まあ、買うけど。

おっと、外史の方に意識を戻さない。

「では、趙雲どの、いや星どの。

私からは真名の代わりに、これを受け取ってはいただけませんか」

流れて、それとなく指輪を渡してみる。

「これは……いや、ありがたく頂いておきましょう」

趙雲さんは、目の前で指に指輪をはめてくれた。

普通であれば、ここで即座にリタイアしない限り、ここから他のプレイヤーだったり主人公の本郷一刀相手に、趙雲さんを掛けた丁々発止が始まるのだが……この課金アイテムのお陰で、とりあえず

俺が殺されてゲームオーバーにならない限り、キープできてしまう。なんとというバランスブレイカー。

とはいえ、実際に確実にキープできているのか、何かしらの手段で持って行かれたりはしないか。

この作品の定石や、その対策なんて、まだ無知も良い所なだけに、せつかくのレアな武將を確保できたこの機会は、欲を出さずに素直にリタイヤしておくのがよさそうんだけど……せつかくだから、普通の人にも指輪を送りたい。

多分、チュートリアルで用意されたんだし、ライバルは居ない筈。と考え事をしていたら、気を利かせてくれたのか、趙雲さんが「少しお休みになられるのがよいでしょう」と席を外し、伯珪どのには目を覚まされたと伝えておきますとの事。

お言葉に甘えて、少し時間を進める事にした。

さて、アイテムボックスを色々眺めてみると、自律行動中に購入したのか、結構色々持っている+1や+2の装備型アイテムと+10や+15の消費型回復アイテム。

武器だったり、本だったり、アクセサリだったり、酒だったり食べ物だったり。

武器は武力、防具はダメージ軽減、本は知力や政治、軍配や羽扇は統率、アクセサリは魅力、酒や食物は運や体力等の回復に対応している。

また、プレゼントすれば忠誠度や親密度なんか上がるのはい言うまでもない。

因みに外史世界の町中の商店で購入できる物は、其れなりの発展度なんかで判定されるらしく、+1や+2なんかが並んでいるのは俺の稼ぎが悪いのか、店の品揃えが悪いのか……というか、酒とメシが多いのはどういう事だ、自律中に趙雲さんの餌付けをしていたという事か？

まあ、有力な武將を自勢力にキープしておく為、色々やっつい

たんだろう。

そのお陰で、イベント一発で指環を渡せるくらいの親密度になっ
たんだろう……と思っておこう。

決して、たかられてた訳じゃないと信じておこう。

とはいえ、街レベルの影響を受ける店売りは、購入できるタイミ
ングや場所に制限はあるが、かなり購入ポイントが控えめになっ
ている。

ポイントショップでは、何時でもどこでも購入可能で、品物も無
くなる事無く、課金アイテムも高レベルアイテムも無差別に置い
てあるが……桁が違う値段になっている訳だ。

お、忠誠度UPオンリー10UPが10000ポイント、20U
Pが15000ポイント、50UPが30000ポイント。

流石に支給リングを一発で吹っ飛ばす100UPは無いかと思っ
たら、100UPは50000ポイントで有りました。

「という事なら、50UPの酒と指環を買っというて」

とかやっていたら、戸を叩く音が。

「満腹、起きてるか？」

「ええ、はい。大丈夫でございますよ」

応えると、姿を現したのは我が上司の普通の人。

普通の人といっても、美人とは平均値の事だっという通り、立派
に美人である。

赤毛のポニーテールが映える細い首元やうなじも、すんなりした
理想的なスタイルも、十分リアルでは、お目に掛かれない代物であ
る。

「どうした？　じろじろ見て。」

私なんか、珍しい物でもないだろ

「う」

「とんでもない、何時も通りお美しいですよ。」

騎馬を率いる時の伯珪殿は何時も惚れ惚れいたします」

「ば、ばか!!」

「はっはっは」

可愛いなあ。

「お見舞い頂いたお礼に此方はいかがですかな？」

良い酒が手に入ったのですが、傷に障るといわれまして、手元に置いておくと気になってしょうが有りませんので」

「ほう、そうか。 頂いておこつ」

ふむ、受け取って貰えたか。

「なあ、こいつを貰ったからって訳じゃないんだが。」

真名を受け取って貰えないか」

「よろしいのですかな？」

「ああ、是非とも受け取ってくれ。」

というか、星の奴の真名は受け取ったらしいじゃないか」

「ああ、まあ、成り行きで、お預かりいたしました」

「ふん……私も色々と考えさせられたんだ。」

いつとくが、今回の事は余計なお世話だぞ。」

これでも、友人の助けになる度量くらいは持っている。

それなのに、バツサリ斬られて……聞くと斬られに行ったらしいな。

気持は嬉しいが、お前でも居ないと色々滞って大変なんだからな」

「それは、済みません」

お前でも、と言われると少々傷付くが、まだレベル低いせいかなあ。

「星の奴も、お前の見舞いと称して、ひよひよひ居なくなるしな」

あー、それについては、俺のせいなんですか。

「ともかくだ、私はお前の事が見えていなかった。

居れば便利位に思っていたが、居なくなつて、これ程バタバタするとは思っていなかった。

星の奴を引き留めようと色々やってはいたが、お前が居る事には当たり前とも感じてたんだ。

だから、真名を預ける事もしなかつたしな。

でも、今回の事で、お前がこの土地を、どう思ってくれてるのか判つてな。

恥ずかしくなつたんだ」

「それは、買被りというものでは」

「えーい、うるさい。良いから受け取れ」

「では、私からは此方を」

「といって、指輪を送ると。」

「へえ、洒落てるじゃないか」

と、あっさり受け取ってくれた。

よし、普通の人ゲットだぜ。

じゃ、このままログアウトしますかね。

「ところでな」

おっと？

「実は、お前が倒れてから、仕事が滞ってていな。その分を桃香達にやらせようかと思っっているんだが。いや。もし、お前が気にするっていうんなら、すぐに追い出すつもりだけだな」

どうだ？ と聞かれてしまえば。

「いえいえ、別段に恨みに思っている訳ではございませんので。はくけ、いや、白蓮どのの思う通りにして頂いて結構でございますよ」

伯珪どの、と言いかけた時に妙な殺気を感じたので、慌てて言い直したが正解だったようだ。

「そうか、それじゃあ遠慮なく使う事にして、お前にも監督くらいはして貰うからな」

じゃあ、今日は体を休めておけよ。

と言い残していく普通の人……これは、チャンスなのか？

たしか、wikiでは関羽ゲットはまだ無かった筈。もう一回、確認してみよう。

FAQ

Q、武将ゲットって、どの辺りまで実績あるの？

オススメと方法とか教えて下さい。

A、オリジナルでここにカキコのあるのは、チュートリアル時に普通の人。

黄巾の時のドサクサで張三姉妹、河北決戦の時の袁紹陣営三人組。

孫呉復興時の袁術とバスガイド、南蛮でニヤンコと量産型。未確認で、可能性の高そうなのが、赤壁時の瀕死黄蓋、定軍山のイベント時の夏侯淵、反董卓連合時の董卓・賈馱、華雄とかか？ あ、黄巾時のあわわ&はわわもか。

因みにチンコ太守が陣営に居ない時ね。

A、加入イベント前の、魏の三羽烏を忘れてる。

A、夏侯淵は無理じゃねえ？ イベントで、いくら下がってたと思うのに、100以上下げてもブレイクしねえ。

そして華琳さま登場後に、必死で300下げてもブレイクしねえ。

というか、三君主つて忠誠上げ能力チートじゃね？
それか、無効化されてる？

A、魏陣営と接触前の三羽烏の内、于禁に社練のブランド抜具を必死で貢物。

慌てて100ロックかけてたのが、華琳さま登場の霸王オーラ一発でブレイクしたでござる。

A、蜀漢大徳フラッシュ・曹魏霸王オーラ・呉国三代ブラッドは所属陣営の相手だと100ロック簡単に抜いてくれるよな。

A、変な名前つけるな（w 因みにチンコ太守もナデポー一発で6

0近く削ってくるぞ、陣営関係なしに。

A、食い物系の貢物を無限に食ってくれる張飛たん相手にテストした結果、陣営所属は凡そ300前後のロックが掛かっている模様。一回ブレイクして、100ロックかけて、またブレイクされたあとは100ロックが掛かっている。

ただし、この100に関しては、半端に削っても何時の間にか、上限まで戻ってるっぽい。

A、前述の夏侯淵の場合、削りよりも華琳さまパワーで上がる方が大きかったってことか？

それかブレイクしないとか？

A、袁術、袁紹、董卓組もだけど、基本的に君主がブレイクしないその他のメンバーが、アレ？ ブレイクしねえなってることねえ？ でも、そのすぐ後にブレイクするから、忠誠自体は落とせると思う。多分、君主が落ちる前は1で残っちゃうんじゃない？

A、いや、それだと張飛がブレイクするのが、おかしい。相手が近くに居るとかの条件か？

A、おお、そういえば、あの時はチンコ太守も劉備も居なかったな。

A、雑談になってるが、纏めるところか。

陣営に所属してない・所属陣営がコケた辺りの武将はゲット出来る可能性が高い。

陣営所属者は初期に300ロックが掛かっている。

君主が居るところではブレイクしない。

ブレイクしても、またブレイクされると100ロックかかる

(回復あり)。

また君主が居なくても、チンコ太守に落とされると、そっちにも邪魔される。

こんなところか？

A、瀕死にして、首輪で何とかできないのかね？

A、うわ、外道が居るぞ。

首輪って、バイオレンス規制外して、ヒヤッハーするときし
か使いでがくないか？

それに自分で何とかできる相手くらいしか、無理っしょ。

武将相手だと黄巾部隊二千とかでも、サクッと逃げられるし。
山賊頭目とか、ヒヤッハーしても忠誠下がないモ武将を
十人くらい集めても、返り討ちでブツ殺されてロストだし。

下手に無理して割合ゲットしやすい普通の人とか使っても、
金掛けて最低200ロツクとか使ってないと、闇討ち命令した時点で
1000ロツクだと即ブレイクして出奔しちゃうし。

300でも、多分勝負が付く前にブレイクして割りに合わない
いし、一瞬のテストに10000円を人数分無駄にするとか無理だわ。

A、そこまで詳しく想定できるオマエが、ここ一番の外道じゃね
ーだろーか。

だれか、ブティック・ミクニのアレ買ってくれ。 500と
か、1000ロツクとか買えるように、なるんじゃねえか？

A、アレ、今日の正午で、キャンペーン終わったらしい。
今新しいのが出た。

5万のペンダント買ったなら、アイテム購入追加だつてさ。

結局、誰も買わなかったんだろーな。

500ロツクとか10000ロツクとか、いらねえし。

300削れるって、どんだけアブノーマルなこと強要……いやいや。

イチャラブするなら200で十分だろ。

A、情報はエエ、つか、リアルタイムのチャットみたいになってるな。

皆ダイブ中か？

因みに5万ならイケル！！　と言う事で人柱行ってきた。

500ロツクが2000円で買える。

しかも、負荷の回復（弱）付き！！

恐らく、前のは800か1000ロツクの回復付きが、3000円か4000円だったと思われ。

A、長い目で見れば……いや、前提の5万が無理だ。

やっぱし、いらねえなあ。

あ、首輪って結局は村人用とかか？

A、璃々ちゃんになら、璃々ちゃんにならいける！！
他にも軍師連中ならボコれるやもしれん！！

A、ちょ、おま、天才かオマエ！！

リリちゃん捕まえて、人質にして黄忠さんを！！

A、ちょっとまていい！！　お巡りサーン！！　犯罪者がここに居ます！！

因みに、上手く璃々ちゃん何とかできても、黄忠さんは見えない所からドタマにヘッドショット食らわしてくるから、脅迫状出して場所指定して待ってる時点で死亡確定です。

指定してなくても璃々ちゃん泣いた時点で、矢が飛んでくるけどな。

A、おまわりさーん！！

なんかグダグダすぎるが、情報は得られたな。

因みに新しいキャンペーン品も買っておいた。

ポチってコード入力したら、20000ポイントで5000ロックが買えるように。

あと、首輪って……もしかして俺なら、忠誠下がない指輪を使える俺ならなんとかなるのかな？

なんとというバランスブレイカー！。

だから、買った奴がいても、書きこむ奴が居ないのかもしれないな。

でも、それなら関羽・張飛は欲しいな。

ヒッターするかどうかは別にして、チャンスではある。

書き込みを見ていると、張飛は食い物系の貢物は無制限とか書いてるから、ブレイクさせやすいだろう。

ただ、対象を個別にしておかないといけないらしいから、仕事を割り振れる権限を握れそうなのが本当にチャンスかも知れない。

ここはアイテム買って、用心しながらダイブ継続だな。

7 (前書き)

本郷 > 北郷に間違いを修正

はい、ちよろつとアイテム購入してきました。

一回死んでも、リタイアせずに復活できる、華佗のお守りです。

一個10000ポイント。

体力&運をマックス回復してくれる、ゴッドヴェイダー印のお粥も複数購入。

そして、運のパラをがっさり使うために、パラアップを十万使って百個購入。

運を161まで上げて見ました。

因みに、普通の人と趙雲さんに、華佗のお守りを渡しておく事にしよう。

なんかの弾みで死なれると困るし。

さて、翌日には何とか起き上がれるようになり、普通の人にお見舞いのお礼方々面会。

「それで、もう大丈夫か？」

「ええ、ご心配をおかけいたしましたして。」

お陰様で、座り仕事でしたら問題なく」

「そうか、助かる。」

それで早速で悪いんだけどな、桃香達にも仕事をさせようと思う。

そこで、監督を頼めるか？」

「お言葉のままに。この満腹めにお任せ下さい。」

確か劉備殿は、白蓮さまと同じ私塾の出身とか、関羽殿もそれなりに文も立つようですから、お二人には内向きの仕事を。

張飛殿は……少々、落ち着きが足りないようですので、星どのと賊討伐をお願いいたしましょうか。

それで、天の御遣い殿には、出来れば内向きの仕事をお願いした

いところですが……暴走しそうな、お二人の御目付けに……お気の毒ですが」

「そうだな、そんな所か」

実際は劉備さんは、だいぶ劣化してると言うか、どうしてこうなった！？ ってレベルになってるんだろうけどな。

普通の人の執務室を辞して、謹慎中の皆さんの部屋へ。

途中で主人公さんの一人部屋に寄って一緒に来てもらう。

チラチラと見られているのは、傷の心配か、それとも敵意なんだろうか？

誰も彼もNPC用のAIとは思えないような、感情をにじませた表情をするので、単純には判断できない。

「それで、金千さんだっけ？」

「満腹と呼んで頂いて結構ですよ。北郷さん」

「満腹さん、俺達、どうなるんですか？」

ああ、今後の心配だったのかね。

「とりあえず、私の遅れた分の仕事を、やって頂きまして。

その分の給金を路銀の替わりにして頂こうかと。

まあ、そのまま留まって頂けるのなら、言う事はないのですが。

流石にそれは、劉備様の願いもあるでしょうし……」

という話をしていると、女性陣の部屋へ到着。

扉を叩いて声を掛けると、何故か趙雲さんまで居る。

「これは、ちょうど良かったのでしようか……星どのの姿が見えないと、白蓮どのがばやいておりますが」

「ははは、いや満腹どのを探しておりますな。

「ここでこうして居れば逢えるだろうと」
「まあ、よろしいですが」

ははははとアチラ向いて笑う趙雲さん。

「それで、こうして伺ったのはですね」

「私達はどのようなのです。」

あなたを切ったのは私だ。私を好きにすればいい。

桃香さまには咎はない」

「あー、そのへんのこと、私も年甲斐もなく、意固地になってしまいましたので、あまり気になさらないで頂きたい」

「自分で斬られに行く方が馬鹿なのだ」

「ちよつと、鈴々ちゃん」

「ははははは、これは一本取られましたな。」

とりあえず、皆さんには、私の遅れた仕事を手伝って頂きましようか。

その分の給金はお払いいいたしますので」

「それでいいんですかっ？」

劉備さんが、えらい勢いで食いついて来たな。

「まず、劉備さんと関羽どには、役場の決済をお願いします。」

「こちらは私も監督としてつきますので、判らないことが有ればお聞き下さい。」

それから、張飛殿には賊の討伐に、お力をお借りしたい。

こちらは星どのが。」

あと、御使い殿には突っ走りそうな、お二人の御目付けを、お願いしたい」

「え、俺？」

「ええ、すみませんが、流石に私も騎馬で遠乗りするまでには傷が

癒えておりませんので、流石のおふたりも、御遣い殿が居れば、そう無茶はしないと思いますので」

「……うん、分かったよ」

北郷さんの顔色が下降中なう。

だが俺は気にしない。

「よろしくお願いいたします」

よし、これでなんとか。

「では、お詫びと暫くの付き合いに、宴席を用意いたしました」

ポンと手を叩くと、数人の女官が宴席の用意を手に入ってきた。

ちなみに、この女官もアイテム屋で購入できる。

今回の場合、反応もろくに返さない、家具扱いのアイテムモブだ（帯をクルクルな悪代官ごっこはできない）ポイントかければ、それなりの能力値持ちのモブも雇えるらしい。

まあ、普通に周回して普通の人とかゲットして、副官扱いで侍って貰ったりする方が、能力高いし、コストも掛からないので、使う人は余り居ないらしいけど。

あ、因みに料理&スイートは忠誠100UPのアイテム仕込みです。

だいたい、一人あたり3つくらい当たるようには撒いてますが、流石に、皆が一緒だとブレイクしませんね。

「張飛殿は食べ盛りですからな、これもどうぞ」

やはり、追加で2つ渡してもブレイクしませんね。

「それでは、明日からよろしくお願いいたします。

あ、張飛殿と星どのは、少し兵達と顔合わせをお願いしても宜しいでしょうか？」

「そうですね」

「わかったのだ」

「俺は？」

「ああ、御使いどのは、しばし劉備どの達のお相手をお願いいたします」

「判ったよ」

で、引き離れた所で。

「おっと、張飛どの。 飴玉を出すのを忘れておりました。

皆には内緒ですが、いかがですか？」

「おっさんは、いい奴なのだ。

だから、鈴々を鈴々って呼んでもいいのだ」

「これはこれは、ありがとうございます。 では、これをどうぞ」

敢えて500ロツクの指輪を渡して置く。

リカバリーの効きやすそうな張飛さんには、どれくらい削れるのかの目安になって貰おう。

顔合わせのあと、二人と別れた。

「さて、明日からが楽しみだ」

で、翌日。

「うん、駄目だこりゃ」

「はっー」

決済の山を前にプシューと煙吹いているのは劉備さん。

劣化つてレベルじゃないぜとか思ったけど、考えたら政治のパラ
つて俺の40とかより普通に高いはず。

それに、経験値がないのは俺も同じなわけで、多分劉備さんと同
じか低い位な筈の関羽さんが、劉備さんを気にしつつも、こうもバ
リバリやれているのだから、何か違う要因のような気がする。

って、普通に頑張つて仕事してる場合でもなかったか。

「煮詰まっているようですので、お茶にしましょうか」

「すみませんー」

というような理由をつけて、お茶とお菓子に1000UP系のアイ
テム仕込んでおく。

うまくすれば、これで劉備さんはブレイクするはずなのだが……。

「あー美味しーです」

「桃香様……」

ブレイクしませんでした。

なんか、君主には隠しの条件付でもあるのか。

関羽さんの場合には、何がしかのプレゼントなりを受け取って貰
うのに、それなりの理由を用意しないと、好感度低い状態では固辞
されてしまうから、攻略難易度が高いんだと思うが、劉備さんの条
件ってなんぞ？

「ねー、満腹さん」

「はい、何でしょう」

あー、お茶うめえ。

「みんながみんな、笑って暮らせる世の中って、どうしたらいいのかなーって」

あー、そんな風に別のこと考えてるから能率ががががが。

じゃあ、そのへんに何かしら答えを上げれば、覚醒劉備になるのかね？

あー、なんか主人公の北郷さんも、そんな事やってたし、そのへんが攻略の鍵か？

でも、世の中みんな笑って暮らせるとか……ああ、理屈と方法だけの提示なら出来るか？

つか、そんなにとつかの二次創作見たくきつちりした答えじゃなくてもいいのかねえ？

社会主義とか仕込んだら、目をぐるぐるさせて、同士諸君とか言い出す劉備さんが見れたりするのだろうか？

うはー、ちょっと見てみたいが、ここは無難に行っておこう。

「劉備殿、この土地の者は、それなりに皆で笑って暮らせていると思います。如何でしょう？」

「うん、白蓮ちゃんが、頑張ってるんだね」

「だとすれば、この土地のやり方を学んで、笑顔のない土地で行えば、少なくともこの土地のようにすることは可能ではないでしょうか？」

実際は、上に居る連中をどうするかが難問なんだけど、今は触れないでおこう。

「そっか。そっかも知れない。」

でも、他の人達はその間も」

「劉備殿、一度に全てを行えると思うのは、思い上がりではありませんか？」

「ええっ!?!」

「金千殿」

関羽さんが怖い顔をしている。

「劉備殿、少なくともはくけ、いや白蓮様は行動し、この土地を人々が笑顔で生きられるように尽力しております。」

私も、その為に働いております」

「それは良く判ります。だから、他の皆も同じように!!」

「それは違う。」

劉備殿がするべきは、ただ漠然と夢を追うのではなく。

一人で一步を積み重ねるか、白蓮様のような、同じ夢を見られる者達を友とし、その者達の旗となる事でしょう」

はい、ここで、運を100ポイント消費して魅力をブーストします。」

関係あるかどうか判らないけど、必要能力とか探るのが面倒だから、井勘定で押します。」

「!?!」

「!?!」

あ、パリーンとブレイク行きましたね。

劉備さんの条件は、覚醒に手を貸すとか、そういう事なんじゃないか?」

「まあ、前者については本来は下策、お勧めは後者ですが、どちらにしる、今の劉備さんのように、ただ徒に時を過ごしているだけよりは、随分とマシでしょうな」

「はっっ」

「桃香様!!」

劉備さんが心臓抑えてばったり机に……すげえ揺れましたよ。

「満腹さん!! わたし、私、目が覚めました!!」

劉備さんは、うつ伏せのままそんな事を仰ると、途端に跳ね起きてブルンっと、じゃなくて。

「先生って呼んでもいいですか!!」

「は、劉備さん?」

「桃香様!?!」

「桃香って呼んで下さい!!」

「ちょ、劉備殿? それ真名じゃ」

「はい!!」

「桃香さま!!」

と、唐突過ぎて吹いた。

「そ、それは、構いませんが……」

「よろしく願います!!」

拳を握りしめて、そんなに力込めて見つめられても、いや、落ち着け、チャンスを逃すな。

「わかりました。この金満腹に、お任せ下さい」

という事ならば。

「では、これをお二人にお渡しいたしましょう!!」

そこそこのレベルの政治上げの本を二つ。

「お二人には、それを今から読み込んで頂きましょうか」

「え、ええ。こんなに分厚いのを」

「わ、私もか、いや、私もですか……いや、これも桃香様の夢のためならば。」

うむ、そうだな。

金千どの、私の真名は愛紗だ。

受け取ってくれ」

「よろしいので？」

「ああ、よろしく頼む」

劉備・関羽ゲットー！。

「真名をお預かりした変わりと言っては何ですが。

これを、お受け取り下さい」

と、さりげなく、二人に指輪を渡した。

さて、流石に、これ以上を引っ張るのは、危険と言つより集中力が切れるな。

リタイアしよう。

8 (前書き)

感想なぞ頂きまして、ありがとうございます。

ご期待いただいていると思うと、ドキドキしますが、今後も駄文を生暖かく流し見てやって下さい。

PS・メアリー・スーにならないか心配だというお言葉を頂きましたが……ぶっちゃけ、メアリー・スーになろうとでも言うべき方向性なので、ご注意下さい。

また、劉備さんにご期待とのお言葉もありますが、マイ外史内では、同一武将の複数存在がありえますので、基本ヒヤッハー側は黄巾モブになると思いますが、ダーク 桃香とか出たらごめんなさい。

設定画面から、外史からの帰還を選択。

再度の確認画面にて、是を返すと共に、周囲の景色が現実感を薄れさせ、足元の確かさが失われていく。

はっと、何かしら、居眠りから突然覚めたような感覚。

本日何度目かの感覚から数瞬、今の自分が何をしていたかを思い出す。

「なにか、こつ。

自分でビクツとしたのに驚いて、居眠りから覚めるような感覚つて、どうにかならないもんかなあ」

「それは難しいことのようにだぞ。

開発の人間も、人間の脳みその働きがくつきりとデジタルで、ON/OFFをきっちり認識できれば苦労はないとこぼしておるわ」

またしても世界が震えるような声。

しかし、どこか愛嬌を感じるような貂蝉の声と違い、威厳と云うか威圧をはつきりと感じる。

しかし、どこかカマッぽい気持ちの悪い「やかましいわ」

「わしの名は卑弥呼。

このタイトルでマイ外史の案内人を努めさせて貰うパーソナルじや」

どうして、この人選にした。

「さっそくじゃが、説明に入るぞ。

マイ外史とは、お主がゲットした武将やモブ達との邪魔の入らぬエキストラステージであり、お主の外史での活躍を助ける、人材・戦力・物資・装備等を整える為の拠点であり
保管庫でもある」

「ほっ」

「お主のマイ外史じゃが、現在は先程までの町周辺がテーマとされて選択されておるが、
外史の行動範囲が広がる度に、街や戦場として切り替えることができるテーマは増えてゆくぞ。

また、ポイントショップで購入できるテーマには、現代の街並み等も用意されておるの

で、覗いてみると良かろう」

「ああ、なんか学園モノとか、タイアップ物とかあるらしいな」

「うむ、れつつ、えんじょいするがよい」

れつつえんじょいて……。

「では、次に現在のこのマイ外史じゃが、当然の事ながら拠点レベルは¹。

少々大きめの村に砦がくつついておるようなもんじゃな」

「それを大きくしていくつてことか」

「そのとおりじゃ。

各施設などには武将や人物を配置することで、効率を上げたり規模を大きくすることが

可能じゃ。

誰もいない場合には、プレイヤーの能力が基準として割り振られるぞ」

なるほど。

「まあ、政治向けにパラを振ったプレイヤーならば、一人でもそれなりに大きくなっては行くがの」

「じゃあ、武将タイプに振ったら、不利なのか？」

「いや、そこで登場するのが、チュートリアルでゲットしたであろう白蓮ちゃんじゃ。

彼女を副官にすれば、プレイヤーの弱い所を補ってくれるからの。そうすれば、政治が10でも何とかなる。

おおよそプレイヤーと副官、二人の能力の平均値になると思っってもらえば間違いないぞ」

なるほど、普通の人がチュートリアルに来るのは、それなりの理由があつたのか。

「因みに、政治向けに振った場合でも、居ると居ないでは大きく差が出るからのつ。

40の能力でも、白蓮ちゃんなら強化してくれるし、治安関連は統率・武力が重要じゃからな、そこが10とかなら、やはり強化は必要じゃ。

むしろゲットに失敗しているなら、キャラクターを作りなおして、チュートリアルから

やり直るのがオススメなレベルじゃな」

流石、万能型なだけはあるな。

「とはいえ、武将が複数人になってくれば、能力を見て直接配置した方が効率が良いぞ」

「ふむふむ」

「あと、注意じゃが、外史では副官という形での能力引き上げはできん。

あくまでも、戦闘部隊の副隊長なり軍師なり。

内政の場であれば、配下の文官として、その個人に仕事を割り振ることになる。

全てに反映させるということはできんのだ。

とはいえ、すべてをプレイヤーが握る場面というものは、早々無いの。

白蓮ちゃんを傍においておけば、その能力を発揮する機会というのは多いじゃろうな」

俺の場合は他にも人物いるから、ある程度振り分けも可能か。

「それから施設についてだが、ポイントで購入できるものもある。

基本的には拠点規模の上限によって縛られるが、便利なものも多いから見ておくと良いじゃろう。

オススメは兵士上限を上げる兵舎・騎馬を編成するための牧場、装備を上げるための工房などじゃな。

この辺りは少ない投資で、購入できるので早期に作っておくのがよいじゃろう。

他には物資収入に効果のある屯田・港・街道、兵士の士気や街の満足度にも影響の出る

「高名な料理人」なども面白いかもしれんな。

まあ、このへんのオプションは高額なポイントが必要だからして、初期には購入しにくいものであるが。

あと、ここでの兵士の扱いであるが、基本的に外史において所属陣営等で預かるインスタントな兵士と違い、個々人の私兵扱いとなる。

大凡、インスタントな兵士よりも兵数は少ないが、士気・練度・装備などで優位に立てるので、上手く使うとよいじゃろう」

なるほど……現状の兵士数の100が最低値か。

士気・武装度・練度が黄巾並みっていう表示はどういう扱いなんだろう？

これより下がるとどうなるんだ？ 袁術兵並みとか？

「とにかく鍛えておけば、切り札になるのか」

「暗殺よけにも重要じゃな」

「ちょ、そういえば、PK行為って割と推奨気味なのか」

「同陣営で、狙いが被っている時の血みどろの争いは、中々にへびいじゃぞ」

なんでそんなに嬉しそうかなあ。

「ちなみにその部隊にも、人物等を配置できるが、外史で全滅などすると、戦死扱いでマイ外史に送られるぞ。

この時点ではロスト等は発生せんが、大幅に忠誠度が下がる為、それが原因で出奔する可能性はある。

これは、理不尽な行い（平和共存を説いて加入させた武將に、盗賊行為など）を強要したりすることでも起こるので注意じゃぞ」

あれ？

「まあ、マイ外史でのロールプレイなどを考えるなら、仁君プレイや、ヒヤッハー系の無法者プレイではキャラクターを分けておくのがよいじゃろうな。」

「考えの異なる人物を集めておくと、忠誠の下がり易くなる環境になる故な」

マジですか……。

「じゃあ、1キャラクターで色々やってみるのは、無理だったりする?」

「あまり想定されておらんな、おそらく難易度は高いだろうのう」

ぐはあ……。

「と、とりあえず、何かアドバイスは?」

「キャラクターで分けられないなら、マイ外史内の拠点を複数用意し、そこを分割して運営することくらいではないか?」

しかし、これは拠点の規模が、ある程度以上に伸びた後、成長が頭打ちになってきた際、新しい拠点を作り、お互いを結び合ってさらに発展する為の機能で在って、お互いを独立させ結ぶに拡大していくというのは、人材リソースやコスト諸々、非常に無駄が多く難易度も高いぞ。

本来なら、ひとつの拠点を運営出来る人材がおれば、それを移動することで、次の拠点を開発できるが、それを封じるということは、個別にそれなり以上の人材を確保なり強化しなければならん。

あまりオススメはできんぞ」

ふーむ、忠誠度的には無理は利くにしろ、たとえば劉備さんにヒヤッハーさせるのはどうにもなあ、夢と希望にキラキラしてるしな

あ。

やっぱり、キャラクター分けて作るか？

ヒャッハーするなら、気兼ねなくやりたくもあるしなあ。

どうせ、キャラクター強化する金は、無駄になっても問題はあまりないしな。

「ふむん、だが、メリットもないわけではないのう」

「は？」

「なんじゃ、ワシはデメリットだけを告げるのもどうかと、頭を絞っておつただぞ」

なんで、こういうところは職務に忠実と言うか真面目なんだ。

それなら、真面目なキャラクターを採用しろと言いたい。

落差につかれるんだよ。

「それはごめん、色々と考えてて。

それで？ メリットって？」

「まあ、手の内における引き出しの数じゃな」

「どういう？」

「たとえば、仁君プレイをしておつては、流石に暗殺なんぞできる人材を、確保しておくのは難しい。

ある程度の手の内は、ロールプレイに縛られるのは間違いないのだ。

じゃが、複数の違うロール（役割？ 傾向？）を1キャラクターでまかかっておれば、イザという時に手を回す手段は多く持てるわけだのう。

一見人徳者、しかし中身は越後屋プレイといえば判りやすからう」

判り難いわ。

「まあ、決めるのはお主じゃ。所詮はダイブシステムの中の夢、お主が浸る為のごらくじゃ。」

強制も義務もない。好きにやるが一番だわい」

身も蓋もないな。

とりあえず、この拠点を弄ってから考えるかね。

9 (前書き)

にじふあん見てたら、名前出て吹いた。

こんな駄文でも、読んでくれていると嬉しいです。

あと、これを見てる人の他のお気に入り作品見ると……お気に入りが自分と随分被ってて、色々と読み直して来たですよ。

あ、理想のヒモ生活、第一部エピローグだったので、全部読みなおしてきました。

あ、劉表伝と地味は愛すべき、復活しないかなあ。

とりあえずは、両立するにしろ、内政メインで行くにしる情報が欲しいな。

まとめでも見るか。

FAQ

Q・マイ外史の拠点運営のお勧め、教えて。

A・内政振りプレイヤーキャラクターと、初期白蓮さんのみで、ひたすらマイ外史内政プレイ。

外史？ なにそれおいしいの？

白蓮さんは俺の嫁。

A・ヒヤッハー！！ 新鮮な村人だー！！

初期白蓮さんは、ヒヤッハープレイにも寛容で、忠誠度下がらずにいてくれるので超大事。

金と装備は略奪で、兵力は湧いてくる敵盗賊吸収して、食料だけ生産拠点作れば、結構な戦力を割と簡単に揃えられるので、戦争大好きならオススメ。

あと、兵種は初期のマイ外史から牧場作れるので騎射がいい（異民族とかのモブでも適性持つてる連中が多い）

水軍作りたいなら、一回南に行つて赤壁あたりでこつてくると、河賊が出てくる土地に切り替えできる。

ただ、水軍適正持つてるモブは少ないので、荊州あたりでネームド・モブを取っ捕まえる苦労あり……さいちゅー・さいかとか出てくると、プレイヤーでも取っ捕まえやすいのでラッキー。

A・内政＋南蛮でケモ武将（ケモミミ・モブ武将）を食い物でつって来て、動物王国プレイ。

南蛮のランダムモブは、バカに出来ない。

猫耳だけじゃなく犬耳、狐耳も出るのだ。

レア亜種ネームド・モブで祝融・孟優が出る場合に虎耳・狼耳とか出る場合すらあるのだ！！

しかも祝融はロリじゃなく、みい達の保護者ポジションの犬耳熟女だったりする可能性も！！

大部分は、みいたちに振り回される気弱系ロリだが。

孟優は、概ね虎耳アタイ系？。

A・俺、南蛮巡りしてくる。

A・どこに食いついたのかスゲー気になる。

A・金山・銀山は購入ポイントが高額で、一定期間で消滅する為、探索で見つかればラッキーくらいに思いがちだが、銀山はともかく金山は、最終的に購入ポイントの五割増しのポイントを吐くので、投資としては、そう悪い選択肢でもない。

A・『高名な厨师』はかなり大事。

士気の底上げだけでなく、プレイ中の飯のバリエーションが

……。
素の状態だと、行軍中は塩むすびとか出てくるぞ。

A・魏陣営のプレイ後だと、舌が肥えて素の状態には戻れない……
…華琳様と流流ちゃん、マジ偉大。

あと黄蓋さんのチンジャオロースー、ちんこ太守から半分強奪したけど、かなりうまかった。

因みに、序盤の蜀陣営は相当に寂しく切ないので、料理系のアイテムあげると張飛が釣れる。

A・マイ外史を内政系プレイで進めていて、急に外史の狙いが戦争中の武将とかになった時、むりくり兵力をひねり出すより、主拠点から離れた場所に隠し砦系（ヒャツハー系無法者用の拠点）を建てると、釣られて周囲に敵対山賊と略奪用の村が沸くので、そいつらを降伏させて吸収するか、討伐して義勇兵募ると費用抑えて兵力を増やせる。

ただし、練度や装備等がボロボロの連中なので、そのあたりに金を使うことになるのと、敵対山賊連中と略奪用の村は周囲に悪影響を、ヒャツハー系の拠点も他の拠点到悪影響を招くので、用が無くなったら破壊もあり。

ある程度以上離しておけば、それなりに影響度は抑えられるので、その辺りは要調整。

なるほど、両立とまでは行かないにしても、利用する方法が皆無って訳でもないのか。

今の感じだと、まず両拠点は、思いつきり距離を離す。

拠点同士、やり取りをさせないなら、距離はデメリットにはならない筈。

副官は、初期の白蓮さんで固定が無難。

表に見せるのは、仁君プレイ。

ヒャツハー側と表の兵士は混ぜない。

部隊長等も、同じく。

下手に混ぜて中途半端な軍勢になるよりは、数だけで使い捨てても良いヒャツハー部隊と少数精鋭の部隊を使い分けるのが、運営が楽そうだ。

大体、ヒャツハー系の武将は、大方モブ武将になると思われるの

で、そこは数で押す。

あと、綺麗な拠点は食料重視・ヒヤッハー系は金銭重視。
そんな所か。

じゃあ、ちよつとやってみるかね。

あ、南蛮がちよつと興味をひくなあ。

さっそくマイ外史に入ると、ガクツと居眠りから覚めたような感覚の直後に、懐かしい風の匂いを感じた。

「ああ、なるほど。イメージが普通の人の拠点だな」

ついさっきまで、外史の中で働いていた職場にそっくりで、妙な安心感がある。

ただ、自分が太守的なポジションに居るのが、変な気持ちではある。

「基本的にサブ体質と言うかNo.2気質なんだよなあ、俺って」

中高で学級内の委員決める時に、自薦他薦から外れてラッキーを願うよりは、内申と影響力と実務の兼ね合いを見て副委員長に自薦するような。

あれ？ ちょっと違うか。

「えーっと、現在の状況はっ」と

意識を浮かせて俯瞰モードに入る。

眼下に離れていく、プレイヤーキャラのおっさんアバターが自律行動を始め、トコトコと拠点の執務室に入り、ペタコンペタコンと決済の判子を押し始める。

周囲の施設では顔に影の入った、おっさんアバターA・B・Cみたいなのが、兵士や文官に指示出しをしている。

これが、人物の割り振りしてない場合に、プレイヤーキャラの能力コピーが用いられるという意味か……華がねえ。

ただ、能力の反映か、施設が地味に工事で拡張されていくのを見るのは妙に楽しい。

なるほど、FAQの内政プレイ云々というのも、判らなくは無いな。

自律行動中は、外史中と同じく時間が加速するらしく、しばらく見ていると、施設などの拡張も落ち着いたようだ。

というか、これ以上は何も手を加えず、能力の割り振り分だけでの限界ということか。

「ふむ、まずは普通の、いや、白蓮さんに会いに行くことから始めるか」

俯瞰モードを中止すると、上空からおっさんの姿に重なるように、視点が落ちて行く。

重なる瞬間、意識がふっと遠くなり、次に目を見開いたときには、自分の目として、筆を持つ手が目に入った。

「さて、行くか」

拠点の一角に、人物の私室が連なる棟がある。

一度、人物の部屋を訪れることで、その人物をマイ外史内で活動させることになる。

また、ここを切り替えると、学園シチュとか、オフィスシチュなんかで、れつつえんじょいができるようだが、今はいい。

入り口に立ち、人物を念じつつ、一步を踏み出すと、扉の前に立っている。

この部屋が公孫伯珪、白蓮さんの私室だと感じ取れる。

「白蓮殿、今よろしいですか？」

声を掛けて暫し待つ。

「少し待ってくれ……」

声が返って来て更に暫し。

扉が開いて、白蓮さんに迎え入れられた。

「それで、どうしたんだ？」

椅子を勧められ、茶を目の前に頂く。

女性の所作ついていいよなあ、とかなんとか、ぼうつとしている所で、白蓮さんから話を切り出してくれた。

「ああ、すみません。」

実は、白蓮殿にお力をお借りしたく

「かまわないぞ……」

うお、ビックリした。

即座の超反応、しかも身を乗り出すようにしてくるものだから。

「ば、白蓮殿？」

「そ、そんなに驚くことか？」

べ、別に、ちよつと暇だから手伝ってやるっただけだぞ」

「いや、そんな、無理にキャラを作らなくても」

「無理って言うな……」

キャラって言葉はスルーなんだな。

しかし、なんでツンデレ風味になってんだらう。

でも、そんなのも、妙に可愛らしく見えるのは……。

「ああ、なるほど、肩の力が良い感じに抜けておいでだ」

頑張りすぎな硬い感じが抜け、余裕の分だけ、普通・地味さ加減が、安堵感・其処にあるべき空気感とでもいう、包容力にも似た女性らしい雰囲気になり、こちらへ新しい魅力を伝えてきている。

「そうか、自分では変わった気はしないんだけどな。」

「多分、お前に頼れば良いって、判ったからじゃないか？」

「そう言っていたらと光栄ですな」

はははと笑うと、白蓮さんが、すっと視線をそらし頬を染める。

「やべえ、すごい自然に可愛い、普通の人最強すぎる。」

「メーカー頑張りすぎじゃないだろうか。」

「AIとかちよつと信じられない。」

劉備さんやら関羽さんやら趙雲さんには、あり得ざるような魅力を感じはしたが、こつも自然で魅力的な人物を人の手が創りだすとか……いや、落ち着け俺。

「そういう理屈っぽいのは、ポイしておけ。」

「うん、OK。」

俺はメーカーの罠に踏み込んで、嵌つてのめり込むのだ。

よし、覚悟完了。

「それで、白蓮殿にお願いしたいのは「なあ、「はい？」」

「その言葉遣い、何とかならないか？」

「はあ、しかし」

「ここじゃ、お前の方がって、私もどうにかしないとイケないか」

「そうですね」

顔を見合わせて、二人で苦笑。

「何々大笑できないのは、苦勞性やら貧乏性がこびりついてるせい」

だろうか。

「では、白蓮殿。私の補佐をお願いしたい」

「了解だ。任せて貰おう……主殿」

ちよつと恥ずかしそうにする白蓮さんに手を差し出し、了解をもらった。

「なあ、ご主人様とかの方が良いんだったら」「いえ、主殿で十分です」「そうか」

なんで、落ちをつけようとするのか。

さて、そのまま連れ立って、二人で拠点の執務室へ。

「で、私は何をすればいいんだ？ 主殿」

「白蓮どのには、全体としての補佐をお願いします」

「分かった。じゃあ、何から手をつけるべきかな」

白蓮さんが資料を手にフムフムと頷き、なるほどと納得を繰り返すこと数回。

「現状、税収から足が出ない範囲での拡張は終わっているようだ。

流石は主殿、優秀だな」

「随分と過酷な職場で鍛えられましたからね」

「確かに、よく平気で過ごせていたと思うな……今から戻れと言われたら泣くぞ、私」

「「はあ」「「はあ」

あまり気にしないことにした。

「これ以上の施設の拡張については、収入に足が出るのを覚悟で行うか、余裕ができるのを待って行くかだが。

むしろ、現状の施設の外へ、新しく縄張りを広げるべきだろうな」

ですよね。

初期の施設だけでは、人の増え方も鈍ってきてるし。

「とりあえず、付近に村を開拓して人口と税収の底上げ。

ある程度の規模になった所から、新規の農地を利水の良い所に固めて配置。

河口に港、街道に宿場と馬駅を置いてマップ外に連絡、物資の過剰や不足を取引でバランス取れるように。

山林に切出し小屋、炭焼き場、「ちよつとまで、「うい？」

「それを一刻にやるつもりなのか？

どうしたって、税収で賄いきれる規模じゃないだろ。

予約にしたって、優先順位を決めてやらないと上手く回らないぞ」

「白蓮殿のご懸念は確かに。

ですが……」

確かに、マイ外史の施設の設置は、アイテム扱いの代物以外は基本、税収の範囲の中でやりくりしていき、税収が伸びた都度、新しい施設なり開発を行うもので、ポイントを持っていても、なかなか開発には反映しづらい。

だが、時たま見つかる金山銀山は、一時の税収を底上げして、開発スピードを上げてくれるものであり、それ自体は購入できるアイテム扱いのシロモノであるので。

「金山が1000もあれば、問題はないと判断しますな」

ポイントショップで、金山を100購入、5万円なり。

金山：購入5000ポイント、一回の税込時に500ポイントの増加。15回のポイント出力で消滅。

銀山：購入3000ポイント、一回の税込時に500ポイントの増加。7回のポイント出力で消滅。

ついでに、拠点に「高名な料理人」「高名な厨师」「味霸王料理会加盟店舗」を購入して配置。

味好酒保、菊下楼、味霸王料理会加盟店が出現。

各5000ポイント、差はメニューによるもので、料理人は独創的かつ家庭的な料理・厨师は四川押しノやや高級なコースだが、奇抜なものも多い・味霸王料理会は、なぜか辛味が控えめになっているが、オーソドックスかつバリエーション豊富。

どれも、拠点や兵の食事のバリエーションが増え、拠点に人を集め、満足度や士気を底上げする。

更に「三国服飾店」「社練皮革具店」購入、タイアップなシロモノだが、プレゼント用の品物が増える。

あとは、工房やらなんやらが出来てから、親方系のアイテムも購入することになるだろう。

「なんとというか……身も蓋もないな」

「身も蓋もないついでにこれを」

「……」

能力UP系の最上位+15を5種類渡す。

細身の剣、軍配がわりの鉄扇、巻物2種・銀のピアス。

各15000ポイントとか、割とトチ狂っている気もするが、自分と白蓮さんで計10個、15万円なり。

ちなみに、これで白蓮さんは、アイテム無しの素の華琳様に若干下回るってレベルの能力値になり、俺はオール55。

ただ、そのまま信用していいのかは、かなり微妙。

アイテムの説明とか見てみると、武力の増加分は攻撃力にしか反映されない様子だし、純然たる能力UPと思つてると足元救われるかもしれない（一騎打ちの技量なんかは、ベース基準だと思われる）

他にも、騎馬適正上げる鞍だとか鎧だとか、名馬だとか、遠距離適性系統の名弓だとか、雑多な個人用装備とかもあるが、そのへんは軍勢ができてから考えよう。

「ど、どうかな？ 似合うか？」

ピアスつけてみた白蓮さん……赤毛ポニーにシンプルだけど印象的な銀のピアス。

「イイ」

「そ、そうか。イイか。」

「ワタシモイイトオモウゾ」

「だめだー、なんで、こんなベタなドキドキがー！！」

「絵面は、援交オヤジー歩手前の犯罪っぽいになあ……！！」

二人してドモツたり黙り込んだりしていると、女官だの文官が決済を積み上げに来たので。

「「仕事するか」しましうか」

「とりあえず、先送りにしておいた。」

仕事を続ける間に、税収が入ってきた。

50000ポイント底上げとか、わからしてくれる規模のポイント増加は、頭打ちだった初期拠点の施設のアップグレードを前進させ、用地の指定だけが済んでいた、新規施設の殆どを初期段階の施設とはいえ、一気に埋めた。

人口、実税収がほぼ倍に伸び、各々が更にアップグレードを繰り返していくことを考えると、まだまだ税収の度に倍々ゲームは続いていくだろう。

「さて、人口は増えたが、治安は悪くなっているぞ。

軍事に金を回さずに抑えるのは構わないが、余力がありながら不具合を拾うのも面白くない。

多少は目を向けてもいいんじゃないか？ 主殿」

「いや、ここまで急に伸びるとは思わなかったのだ。

流石に初期兵力の100だけでは、治安維持も難しいですね」

「私の国も、こうもアツサリ人口が増えると楽だったんだがなあ」

遠い目の白蓮さん。

「こちらだと、どこからともなく流れてきますからねえ、人が。

産めよ増やせよを考えなくていいのは、ある意味インチキですね」

「あと、戸籍が完璧とかな」

あー、楽でいいわーとは、白蓮さんの談。

「なるほど」

「えらい目にあつた」

拠点の一角、趙雲さんの私室の前に立ちつつ、息を整える。

「星どの、よろしいかな？」

「満腹どのか、少しお待ちを」

待つこと暫し、相変わらずの挑発的な格好で、こちらを出迎える

趙雲さんは、朱の入った白い肌が艶かしい。

勧められた椅子に腰掛けても直視できない感じで、オドオドしていたら、いきなり酒が出てくるのはどういふことだろうか。

「まずは一献。度胸付けにいかがかな」

「頂きましょう」

うん、割りと言い。

擬似のくせに拘りを感じる。

ちゃんと酒飲んでる感じがするあたりも、成人向けなんだな。

「落ち着かれましたかな？」

「なんとか」

クスクス笑うのは、やめて欲しいが。

「では、参りましょうか」

「はい？」

いきなり、どうした。

「おや？ 違いましたかな？
てつきり、我が槍を用いるべき時が来たかと思っておりますが。
……おう、これは失敬。
伽をせよとの仰せで「いやいやいやいや。星どのの武勇を必要
としておりますので、はい！！」
それは残念」

くそう、完全に遊ばれとる。

「それでは、参りましょうか」

「はいはい、お願いいたします」

疲れる……。

で、執務室に来たわけですが。

「おやおや、伯珪どの」

「なんだ？」

「いや、ずいぶんところ、見違えましたな」

戻ってきて、いきなり何か始まるし。

「あ！？ 私には似合わないってか」

「いえいえ、よく似あっておりますよ。嫉妬したくなるほどに、
ええ」

って、こっちにジトーつとした視線投げてくるのはやめてくれま
せんか、趙雲さん。

「はいはい。判りましたよ。」

しかし、せつかく白蓮殿へ選んだものと同じでは芸がありません

しな」

とは言ったものの……ポイントショップって、膨大ではあるけど、微妙な代物も多いわけで……強いけど、どう考えても狙い過ぎな、ロンギヌスの槍+綾波セット（プラグスーツ+ヘッドセット）とか……。

……。
って、お？

コスプレ用か、オリジナルメンバー衣装各種とかあるのか。

小物が5万から衣装本体20万ポイントって……おい。

ああ、2Pカラーどころか、12Pカラーとかまであるんだな。

しかも、能力付与ありか……白蓮さんにも、こっち送ればよかつたんでは……書物とかじゃなくて。

まあ、いい。

この際、趙雲さんに趙雲衣装の色違いを送ってみよう。

恐ろしい事に、青地に金赤で鳳凰とか、黒地に銀青で五本爪の昇竜とか、漢王朝に喧嘩売ってる感のデザインもある。

ここは、あんまりそのへん気にせず、黒の衣装を贈ってみようか
帽子、衣装、履物で二十五万ポイント。

帽子に知力・政治+5、衣装に魅力・統率+8、履物に回避・移動力修正UPという内訳。

武器の龍牙は、元々で結構な業物なので、そのままに。

「これなどは如何でしょうか？」

どこから出した的なツツコミは特になく、取り出された衣装を見る趙雲さんの目は厳しい。

気に入らなかつたか？

「これは……俺色に染まり、二度と他の色に染まる事は許さんという『貴様は俺の所有物！！』的な意味と捉えて「どうしてそう」な

らばこの趙子龍、満腹殿いやさ我が使い手と共に、六道の底、無間の闇、終わる事無き修羅の戦場を駆け「話をきいて」「その爪牙となりて、この槍を振るいましようぞ」「どうしてこうなった」「説明しよう!！」

急に周囲の動きがとまり、停止した時間の中、野太い声が脳裏を震わせた。

「急に出てくるな怖いから」

マッチョ二号の突然さに、思わず素で突っ込んでしまった。

「むう、失礼な!！」

はっ、これはイタイケな漢女心を傷つけ、打って変わって優しい言葉で籠絡しようとする高等テクニ「違うから!！」イケズじゃのう

気持ち悪いことを言うな。

そんなフラグ出たら死に物狂いで折ってやる。

「それより説明って?」

「少々振り切り気味の趙雲殿のことじゃ」

ああ、やっぱり、振り切り気味なんだ。

「もともと、趙雲子龍のキャラ的に『自分に見合う、仕えるべき相手を探し、己が力を十全に発揮する』という欲求があるのじゃが」

たしかにそういう部分はあるかもな。

「それが転じて、現状……『己が選んだ主に自分を使わせる』という、欲が突っ走り気味のようじゃ。」

通常、こういう暴走気味のテンションというのは、コストオーバーの褒美やプレゼントで、一時的にコスト上限を超えた数値になることで起こる症状じゃが、例のタイアップ商品の指輪……忠誠やら親愛やら数値維持の上に更にアゲアゲ状態じゃからな。通常状態に戻らん」

「それってどういう」

「しかもじゃ」

話し聞けよ。

「少々嫉妬入った所での、おねだりに『良い感じの答え』が返されて有頂天じゃな。」

まさに発酵腐女子に燃料投下状態じゃ」

なにそれ怖い。

「じゃあ、どうすりゃいいんだよ。ずっとこのテンションかよ。それに白蓮さんは其処までおかしげなテンションじゃないだろうに」

そのへんもキャラの差か？

「違う違あぁうー！！ おぬし、女心がわかっておらんのか」

「カママツチヨにダメだしされた!？」

「公孫贖殿の欲求には『支えられる事、共に歩む者が欲しい』等という辺りが含まれておる。」

そのへんが、突っ走って、強度の依存状態になっておるようじゃが」

そうだったけ？ 割と普通に見えるけども。

「ぶっちゃけ、一番に選ばれて、補佐を頼まれたことで満たされておるからそう見えるだけじゃな。」

ワシには、趙雲殿にちよっかい掛けられて、少々病んでるように見受けられるぞ」

マジか。

「実はここでワシが出張ってきたのは、GM権限での仕様確認のためじゃ」

「バグ？」

「我社はユーザー対応には定評があつての。」

まあ、実際は想定外に近い現象ではあるが、全体への影響は極めて微かじゃ。

だいたいアレを購入した人数は十指に足らん」

そんなに少なかったのか。

「じゃから、個別に確認しておるわけじゃ。」

購入キャンセルも含めた返金、アイテムは保持でのカスタオバーへの対策、あるいは現状維持。

お主の望みどおりにしよう。

因みに他の連中は、間髪入れず「ナイスヤンデレ、ありがとう御座います」と笑って刺される道を選択したものが多いのう」

なんとという訓練された連中なんだろう。

俺の答えは……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9996y/>

恋姫†無双オンライン

2011年12月11日07時51分発行